

故墟考には、竹橋領山に千歩許の平地があつて、里人之を城山といふと記してゐる。

タケノブヤス 武信豫 通稱市郎左衛門。父源左衛門は成瀬主計の興力であつた。信

豫、寶曆六年新番書寫役となり、明和六年新知百五十石を得て組外に列し、天明五年大小將組に轉じ、寛政九年六月十八日七十歳を以て歿した。

タケノブヨシ 武信好 通稱貞右衛門・市郎左衛門。寛政九年養父市郎左衛門信豫の遺知百五十石を受け、大小將組に列し、御書物奉行となり、次いで五十石を増し、文政九年隠居した。

タケノボウ 竹の坊 金澤の俳僧。天明四年洛の玄化堂甫尺と相携へて能登に遊び、能登日記の著があり、寛政二年に杖と題する俳書がある。竹の坊の居は淺野川の庵とある。關東の流を汲むものである外、未だ隠居を詳かにせぬ。

タケノミネ 嶽ノ峰 能美郡神子清水部落の東にある山。高さ五〇六米。地質第三紀層。タケノヤチガハ 竹ノ谷内川 鹿島郡矢田領たけの谷内から流出し、同領で大谷川と落合ふ。流程四軒許。

タケハラ 竹原 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。明治八年十月に至り、太田川と合併して竹太と改稱した。

タケハラザキ 竹原崎 羽咋郡得田保にあつた地名。建武二年七月十四日沙彌成光判書に、「讓渡後家分所領事。一所能登國云々、一所同國得田保内田屋敷門田壹段在所竹原崎助次郎入道垣内家存之。」と見える。

タケベ 武部 鹿島郡淺井庄に屬する部落。

能登名跡志に、「武部村に眞館氏十村役あり。」とある。文政元年この村の古墳を發掘して、古鏡一面小刀一玉を納めた瓶を得た。鏡の徑六釐六、二宮神職の家に之を藏するといふ。

タケベウマノジヨウ 武部右馬允 越後の子。前田利常に仕へて五百石を領した。五代四郎兵衛正房に至り、安永元年能州郡奉行勤務中不念の廉あるを以て知行を召放された。

タケベエチゴ 武部越後 前田利家に仕へ、五百石を領したが、後に浪人となつた。

タケベキユウザエモン 武部久左衛門 ↓ シマバラノラン 島原の亂。

タケベクニノリ 武部邦敬 通稱右門。新番より起り、御側小將・奥小將に任じ、寶曆十三年養父治部丞那道の遺知百三十石を襲いだが、明和三年七月罪を得て一類預となり、八月玉井主税に預けられ、四年八月五ヶ山に流された。後安永中配所御免になつたが、同八年出奔した。

タケベジンジャ 健部神社 鹿島郡武部に鎮座する。式内等舊社記に、「健部神社。朝日庄内武部村鎮座。祭神日本武尊。今稱牛頭宮。俗云藥師明神。舊社也。」とある。

タケベモロズミ 武部師澄 能登誌に、久安・仁平の頃七尾城に武部判官師澄が代官として居住したといひ、越登賀三州志來因概覽に、康治又は文治の頃武部判官師澄が能登の國司であつたともある。しかしこの師澄は他に所見がない。

タケベリユウシン 武部柳新 初め御茶堂坊主となり、享保三年同小頭並として四十俵三人扶持を受け、九年小頭に進んで五十俵と

なり、十九年坊主頭に任じて新知七十石を賜はり、寛延元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

タケベウヘエ 武部和兵衛 初め和左衛門。元禄十二年御歩となり、享保元年新知百石を受け、御歩小頭に任じ、十六年三十石を加へ、組外に列して神田御前附御用人並となり、寶曆六年七十六歳を以て歿。孫右門邦敬の時家斷絶した。

タケマタ 竹又 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

タケマチ 竹町 鹿島郡矢田郷に屬する部落。

タケマツ 竹松 石川郡山島郷に屬する部落。元和二年以前は武松と書いた。陸涼軒日録寛正六年六月十八日の條に、「大館又次郎被檢賀州武松村之事、依岩室契約也。無謂之由披露之。」とも見える。

タケマツハヤトオボエガキ 竹松隼人墨書一册。富樫勸智物語の抜萃で、隼人は勸智の家子であるといふ。

タケムライツセン 竹村一川 金澤の俳人。名は近定。十丈園四代を繼席した。もと藩の足輕で、後に染物の上繪を業とした。明治三十九年九月廿二日八十歳を以て歿。

タケムラクログダウ 武村九郎太夫 馬術の達人であつた。寶永五年初めて二百石を興へられ、正徳四年百石を加へ、元文四年六十一歳を以て歿。その支系は五代侃九郎貞一、百二十石を領し、天保二年十月二日出奔斷絶した。

タケムラサプロベエ 竹村三郎兵衛 初名多宮。天明八年養父猪太夫政善の後を受け、祿途に百五十石に至り、學校横目・町同心に

歴任し、文化七年歿した。

タケムラヤキチ 武村彌吉 元祖彌吉貞次は近江栗太郡辻村の人。寛永中金澤に移り、鑄物師の業を開き、天和三年歿した。二代彌吉貞矩は初名市三郎、正徳五年歿。三代彌吉貞平は初名彌吉郎、元文五年歿。四代彌吉家護は初名吉三郎、寶曆九年歿。五年彌吉貞家は初名宗吉、安永二年歿。六代彌吉貞興は初名彌藏、文化八年歿。七代彌吉家次は初名佐一郎、文化十一年歿。八代彌吉貞敬は嘉永中藩の火矢方隱密方を命ぜられ、大砲鑄造の事に當り、慶應三年に歿し、子彌一郎以敬が家を繼いだ。

タケヤニヘエ 竹屋仁兵衛 前田氏の金澤入部以来の家柄町人。世々仁兵衛と稱した。元祖仁兵衛の時天正中から慶長二年まで、未だ金澤に町會所がなかつたが、その博勞町の居宅を役所に宛て、仁兵衛を役人とし、又傳馬役所をも勤めた。子孫相繼いで町役人となり、年頭には藩侯に謁見したが、寛政頃罪を得て公事場に禁錮せられ、爲にその舊慣を停止せられた。

タケヤマ 嶽山 珠洲郡高屋の部落西方海岸に在る岬。寶永元年一覽記に「徳保崎の向の海中へ石山の出崎あり。だけ山といふ。上に辨財天の茂みあり。其並に物見山として石山あり。」とある。

タケヤマチフザエモン 武山治部左衛門 初め源左衛門。御鷹匠から同小頭に進んで百石を領し、天明五年三十人頭となり、寛政三年組外に班した。子孫相繼いで藩に仕へる。

タケヤマトヨゾウ 武山豐藏 ↓ トミヲカトヨゾウ 富岡豐藏。